

会議名 まちづくり町民講座「ニセコスタイルの教育を考える」

開催日 平成28年11月8日	会議時間	開会 午後 6時30分 閉会 午後 8時30分
会議場所 ニセコ町民センター 小ホール	記録者 ニセコ中学校事務職員 三坂 宜巳	
出席者：地域住民、学校運営協議会推進委員会委員、学校評議員、町PTA連合会役員 教育委員、教職員、教育委員会事務局職員 計57名		

会議内容

<p>1. 開会（司会進行：加藤課長）</p> <p>2. 教育長あいさつ</p> <p>3. 講演：子どもたちの未来のために「地域とともにある学校」を ～コミュニティ・スクールの可能性～ 講師：みたかスクールコミュニティ・サポートネット 文部科学省コミュニティ・スクール推進委員（CSマイスター） 四柳 千夏子 氏</p> <p>【コミュニティ・スクールとは何か？】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会の委員は学校の下部組織ではなく、学校と対等なパートナーとして教育を担う。 ・コミュニティ・スクールは、どういう子どもを育てたいかを地域と学校で共有する場であり、学校を応援する仕組み。 ・教育課程の内外を通じ、子どもたちが積極的に地域で学ぶ、地域課題の解決に取り組むという視点が大切。学校依存ではなく地域社会がより積極的・主体的に教育活動を展開するべき。 <p>【三鷹市での取組について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三鷹市では中学校区を単位（学園）として、小中一貫教育を実施。 ・三鷹中央学園ではコミュニティ・スクール委員会と小中一貫の委員を兼ねている。会議は年10回程度。2～3月に学校の基本方針の承認を行い、4月から実践している。「承認」は、学校を支援する活動を責任もって行うということ。 ・学校の支援活動を行ったら反省・検証を行う。また、保護者を対象としたアンケートの集計・反省を行い、次年度の教育計画へつなげている。 ・学習ボランティアでは保護者や地域の方200名が登録。先生からの依頼を事務局が受けサポーターへメールで要請を行うシステム。主に、音楽・図工・家庭科・英語活動・パソコン・校外引率・算数などの授業支援を行い、最近では運動会のボランティアにも来てもらっている。 ・CS委員自身で作成したボランティアマニュアルを必ず理解してもらっている。“守秘義務”と“授業に入るときは監視者ではなく支援者”ということが大切 ・小学校2年生のまち探検の学習では、先生に代わり地域の企業へ児童の受け入れを依頼するなど、地域とつなぐ役割を担っている。「地域安全マップを作ろう」という

学習では、地域の良いところを見つけてもらいたいという思いを先生に伝え、学習を進めている。発表会では地域の方にも参加してもらった。

- ・家庭での学力定着のため放課後学習では、大学生や地域のボランティアが協力。子どもたちは難しい問題にも諦めず取り組むようになったという成果があった。
- ・熟議で大切なことは当事者意識を持つこと、いろいろな立場や職業の方の意見を理解し尊重することが大切。みんなでビジョンを共有し課題解決に向けて話し合う。
- ・パワーアップアクションプランはPTA、CS委員、先生が何年もかけ、何度も話し合い作成した。同じ目標に向かって立場の違う人が何をしているかがわかる表を毎年配っている。
- ・目指すべき子どもの姿を全員で共有しよう。参加から参画へ、協力から協働へ。

4. 質疑応答

Q：学園学習ボランティアマニュアルについて、守秘義務のトラブルはあったか。

A：トラブルはない。

Q：小中一貫の学園教育目標とコミュニティ・スクールの教育目標の内容は同じものか。誰が作成しているか。

A：同じものではなく、小中一貫の目標とコミュニティ・スクール目標がある。学校長が原案を作り委員で話し合う。

5. 説明「ニセコスタイルの教育」についての検討状況

資料により淵野係長から検討状況を説明

6. ミニ熟議「ニセコスタイルの教育をみんなで考える」

◆アイスブレイク・自己紹介

◆前半テーマ＝ニセコの子どもたちにどう育てほしいか？

◆後半テーマ＝そのために、自分は何ができるか？

◆発表（時間の関係で2グループのみ）

グループ1：あいさつができる子・自分のことができる子・好奇心を持つ子・自然を楽しみ、大切にしている子・明るくって健康な子ども

→自分からあいさつをする・子どもに愛情を持つこと

グループ2：あいさつできる子・優しい、思いやりがある、友達を大切にしている子・豊かな自然を愛せる子・理解し合える子

→笑顔で自分からあいさつをする・お年寄りに優しくする

◆講評

別の立場の人達と話し合っても最終的にみんな同じ意見へと繋がる。

みんなの想いは一緒であることが確認できたのではないか。

ここで出た意見の中ですぐに実践できることは、すぐに行動に移す。

そして輪が広がっていく。

7. 閉会あいさつ（渡邊校長・学校運営協議会推進委員会委員長）